

26011-1223
令和8年6月15日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和8年度病害虫発生予察注意報第2号について

令和8年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

令和8年度病害虫発生予察注意報第2号

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。防除の徹底を図りましょう。

- 1 病害虫名 : 斑点米カメムシ類
- 2 作物名 : 早期水稻
- 3 発生地域 : 早期水稻栽培地帯
- 4 発生量 : 多

5 注意報の根拠

- 1) 6月上～中旬の早期水稻(33ほ場)におけるすくい取り調査では、斑点米カメムシ類の発生面積率は72.7%(平成26.1%)、発生程度(20回振りすくい取り虫数)は4.6頭(平成0.8頭)で、いずれも平成比多であり、過去10年間で最も高い(図1、2)。
- 2) 種類別では、クモヘリカメムシが3.4頭(平成0.4頭)、ホソハリカメムシが0.8頭(平成0.2頭)と多い(図3)。
- 3) 向こう1か月の平均気温は高い見込みと予想されている(鹿児島地方気象台6月11日発表1か月予報より)ことから、カメムシ類の活動に好適であることが推測され、注意が必要である。

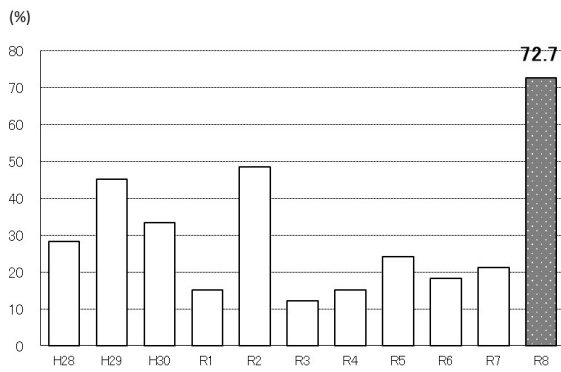


図1 6月上～中旬の発生面積率の推移

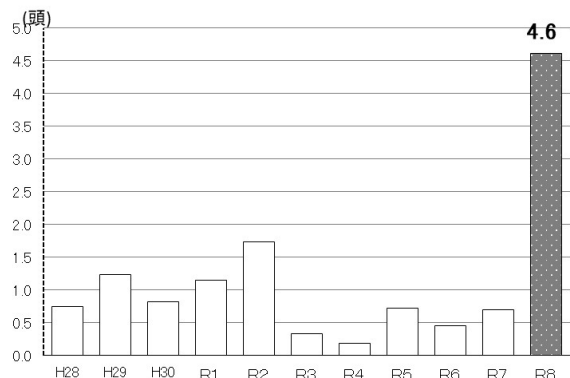


図2 6月上～中旬の発生程度 (20回振りすくい取り調査) の推移

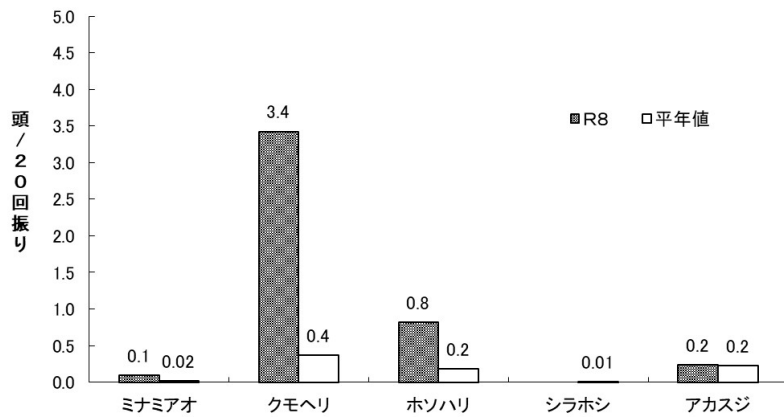


図3 種類別虫数 (20回振りすくい取り)



図4 主な斑点米カメムシ類

(左上からミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、アカスジカメムシ、イネカメムシ)

6 防除上の注意

- 1) 防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除を基本とするが、発生が高密度の場合はさらに追加防除を実施する。
- 2) 地域全体の発生密度を下げるため、可能な限り、広域での一斉防除を実施し、防除効果を高める。
- 3) 農薬を使用する際は、必ず容器のラベルの登録内容を確認すること。
- 4) 散布の際は、周辺の作物の栽培状況を確認し、他の作物へ農薬が飛散しないよう対策を講じる。

7 その他

6月1日から8月31日の3か月間は、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベルの登録内容の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 清、後藤
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

